

社会民主主義 フォーラム青森 通信

NO.14 2022年6月20日
フォーラム青森
〒030-0802
青森市本町3丁目3番11号
青森県平和労組会議気付
forum-ao2021@outlook.jp
080-5413-2848 (事務所専用 TEL)

「田名部まさよ」総決起集会を開催(青森市)



6月12日14時から「参議院選勝利!田名部まさよ総決起集会」を青森市アラスカ会館で開催した。この開催は、立憲本部の後藤祐一役員室長が来青することから、はじめは「国政報告会」とし、藤田誠青森市選対本部長の挨拶の際に決起集会に切り替えた。

当日は、200名の参加があり連合青森塩谷会長・社民党県連今村代表から連帯の挨拶を受け、後藤室長からは中央情勢や立憲の政策と、青森が「最重要選挙区」であり絶対に勝利しなくてはならないことが話された。

その後、田名部まさよ予定候補者から「日本の農業事情や国民をないがしろにする政権を交代させよう」「絶対に勝利する。国政へ送って下さい。」との決意が述べられた。

最後に升田世喜男第一区選対本部長から「勝利のため決起しよう」との「檄」が飛ばされ、姥名和子青森市議の『ガンバロウ三唱』で締めくくった。

(斎藤)



立憲青森市支部全党员・サポーター集会

6月1日午後6時から青森県民福祉プラザで参議院選挙勝利に向け、勝負となる青森市の全党员・サポーターとの情報共有が必要ことから同集会を開催した。

集会には31名が参加し、升田第一区選対本部長・藤田青森市選対本部長の両氏から挨拶を受け、選挙情勢と行動について齋藤選対事務局長から提起された。

この集会での意見等は、

①立憲は生活安全保障と言うが、難しい。宣伝が下手なのではないか。

第2回フォーラム青森支部総会開催 憲法改悪を許すな!

フォーラム青森支部は5月21日10時から、青森労働福祉会館で、21名の参加で第2回総会を開催した。来賓には、田名部まさよ参院予定候補と升田世喜男氏両氏が出席した。はじめに、姥名和子代表から参議院選挙勝利を含めた挨拶を受け、議案提案の後、質疑に入

②生活の実態を踏まえて、防衛費の増額約5兆円の使途について提案すべき。

③立憲と自民党都の政策の違いを明確に。

④立憲に若い人の票は入っているのか。

⑤立憲として訴えるものが少な過ぎる等々があった。

その他に、選挙関係では電話がけの必要性や新たに有権者となる18歳の名簿を選管で書き写しDMを送ったかどうか。等の意見も出され、最後に升田氏から「絶対に負けられない選挙であることを確認し、最後までガンバロウ」で締めた。

(斎藤)

質疑では、①立憲の政策がよく分からない ②党費のあり方について ③フォーラムとしての取組方についてなどなどの意見等が出された。

今まさに「憲法改悪」が進められようとしている。日本を「戦争をする国」にしてはならない。参院選を勝利するために取り組みを強めよう。(斎藤)

青森県を自民党一色にはさせない!

フォーラム下北支部 第2回定期総会開催

フォーラムしもきたは5月28日、第2回総会を「来さまい館」で開催しました。総会には全会員17名中12名の会員と5名の来賓が参加しました。

杉山副代表を議長に選出し、目時代表の開会あいさつに続き、来賓として駆け付けていただいた田名部まさよ参議院議員以下5名の方々よりあいさつを受けました。田名部議員からは青森県を自民党一色の政界構図を許さない最後の砦として必死に闘うとの決意表明と私たちの組織に対する支援のお願いがありました。

議案(下記に掲載)審議では組織強化のために何をなすべきか、現状の地域の労働界を取り巻く課題の分析、参院選における県内での野党共闘の進展状況などいくつかの意見がありました。議論を踏まえ、組織の強化に向けて引き続き取り組むことや喫緊の参院選で田名部候補の必勝へ向けて全体で取り組むことを確認しました。

【来賓としてご参加いただいた方】

- ・社民フォーラム青森事務局次長…斎藤 憲 雄 氏
- ・立憲民主党参議院議員……………田名部 まさよ 氏
- ・立憲民主党青森第一区総支部長…升 田 世喜男 氏
- ・連合下北地域協議会事務局長…新 川 優 氏
- ・立憲民主党下北支部副代表…………山 本 信 悦 氏

《総会で確認された議案》

【2021年度経過報告】

- ① 昨年3月に社民党下北総支部を「社民フォーラムしもきた」として再出発。政党活動としては立憲民主党に軸足を置きながらも残った社民党組織とも一定の友好関係を保ち、切磋琢磨し社民主義の実現を目指してきた。
- ② しかし、県内でフォーラムに結集した仲間は103名にとどまり、独自の活動はできていないのが実態。諸行動も他団体との共同行動にとどまっている。「しもきた」についても会員数17名を擁するものの高齢会員が多く目立った活動は行われていないのが現実。
- ③ こうした中、事務局では地域内の政治情勢や社会環境問題について課題の共有化へ向けたニュース配信を月1回発行する位しか独自の取り組みはなかった。ニュースは80部ほど発行し、会員以外には関連労組や退職者組織代表、友誼団体役員などへ届けた。
- ④ 政治活動では立憲民主党むつ下北支部へ副代表や幹事長代行などを派遣し、衆院選を担ってきた。結果は残念ながら下北では前回票を超えることはできなかった。
- ⑤ 地域の課題についてはリハビリテーション病院の民間委託問題への対応として「下北の医療を考える会」結成に関わり、目時代表が同会の共同代表に就任しながら取り組みました。また中間貯蔵施設の核燃料税問題では杉浦むつ市議と協議しながらむつ市側の姿勢を糾した。



目時睦男代表



斎藤憲雄氏



田名部まさよ氏



升田世喜男氏



新川優氏



山本信悦氏

【2022年度活動方針案】

- ① 新年度も会員拡大を見込める要素はなく、現状のスタンスでの活動形態は必至。その中でも、一人でも二人でも会員拡大を目指す。
- ② 可能な限り、ニュース情報紙の内容をより一層充実させながら、月1回以上の発行を継続し、会員間の情報交換や、護憲・反戦平和を志向する地域の方々への情報提供を進めていく。
- ③ 連合下北地協や同退職者協との連携を密にしてそれぞれの団体の各種行動にも積極的に関わっていく。
- ④ 独自活動が困難な現状で各団体との共同行動に積極的に参加していく。また地域内における立憲野党間の共同行動の実現や必要に応じて選挙における共闘へ向けての政党間の橋渡しも積極的に対応する。
- ⑤ 7月に予定される参議院議員選挙では立憲民主党現職の田名部匡代氏の必勝に向けて選対任務も主体的に担いながら、自公政権の憲法改悪策動を許さない議席数の獲得に奮戦する。また、明年に予定される統一地方選挙、むつ市議会選挙においても立憲民主党を中心に反自民、社民主義への理解を示す候補の擁立や支援を積極的に取り組む。

(社民フォーラムしもきた VOL.16 2022.6.3 より)

社民フォーラム八戸支部

八戸支部は、ほぼ毎週(だがほとんど急きょ)の選対会議に出席しながら、立憲の行動に参加。

候補本人の声による(CD 録音)流し街宣行動で、八戸以外でも三戸郡・上北郡・十和田市など岩手県境・秋田県境まで街宣車を回しました。

あと、(割り当てられた)会社・理容・保育などの支持者まわりを行動中です。(佐藤)